

兵庫県下のオビモンマグソコガネほか数種のマグソコガネの記録 内藤 隆夫

兵庫県で得られたマグソコガネ数種について報告する。記録はすべて筆者の採集によるものである。

1. *Aphodius unifasciatus* Nomura et Nakane

クロオビマグソコガネ

2exs., 神崎郡福崎町七種山, 19.III.2001; 3exs., 多可郡加美町千ヶ峰, 20.III.2001

シカ糞より得た。本種には、上翅の黒色部が発達する型が知られるが、今回千ヶ峰でこの黒色部がほぼ完全に消失した個体が1頭得られた。本種のこのような斑紋変異の主な要因は、幼生期の気温であるとされている(武田, 1999)。

なお、本種とチャグロマグソコガネについては、目撃した個体の一部しか採集していない。

2. *Aphodius okadai* Nakane

オビモンマグソコガネ

15exs., 多可郡加美町千ヶ峰, 16.III.2001; 25exs., 同所, 20.III.2001

比較的最近まで奈良公園(模式産地)のみが本種の産地として知られていたが、滋賀県、広島県、島根県からも記録され、本州西部に分布する種であることが分かってきた。シカ糞から得られる種で、シカが多数生息していることが分布の条件である。

現在の知見では、他県においても産地は非常に局限されているが、多可郡三国岳～笠形山には同様の環境が続いており、この山系一帯に分布する可能性もある。同山系ではアカマダラセンコガネも複数得られており、奥深いものが感じられる。

3. *Aphodius pallidiligonis* Waterhouse

ネグロマグソコガネ

4exs., 多可郡加美町千ヶ峰, 20.III.2001

シカ糞より得た。

塚本(1999)には、本種の産地として宮城県、千葉県、滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、長崎県、大分県、鹿児島県が挙げられており、また広島県からも記録されている(水田・西, 1998)。

本種とともに *Paremadus* 亜属に含まれるチャグロマグソコガネに比べて、分布はかなり限定されている。兵庫県下の本種の記録を調べられていないが、本種が得られているとすればチャグロマグソ

コガネも採集されていた可能性が高い。筆者は、多雪地や高標高地、陰湿な場所ほどチャグロマグソコガネが優占しているものと考えている。

筆者の奈良公園での観察では、本種は *Paremadus* 亜属の中では春季最も遅くまで多くの個体が見られ、渡辺(1989)にも同様の結果が示されている。今回本種の個体数は少なかったが、これは時期の問題よりむしろ発生量自体の少なさによるものと思われる。武田(1999)によれば千葉県における本種の発生量は年によって増減が顕著であるという。

4. *Aphodius isaburoi* Nakane

チャグロマグソコガネ

6exs., 相生市三濃山, 26.II.2001; 6exs., 多可郡加美町千ヶ峰, 16.III.2001; 27exs., 神崎郡福崎町七種山, 19.III.2001; 10exs., 多可郡加美町千ヶ峰, 20.III.2001

いずれの場所でもシカ糞より得た。今回本種しか得られなかった場所でも、上記2種が分布する可能性はあるものと思われる。

<参考文献>

- 近重克幸ほか(1988)鶺鴒半島・ホンシュウジカの糞に集まる食糞性コガネムシ すかしば(30):45-48.
三木三徳・廣田嘉正(1998)奈良春日山原始林と周辺のコガネムシ 奈良県野生生物保護委員会
水田國康・東常哲也(1991)広島県の食糞性コガネムシ類 広島虫の会会報(30):39-47.
水田國康・西 真弘(1998)広島県産フン虫の記録追加(2) 広島虫の会会報(37):5-6.
内藤隆夫(2000)兵庫県で採集した甲虫類の記録 きべりはむし28(2):77-82.
高橋寿郎(1997)中国山地をめぐる地域のコガネムシ相 ホンザキグリーン財団研究報告1:205-219.
武田卓明(1999)千葉県の食糞コガネムシ類 千葉県動物誌:564-583.文一総合出版
塚本圭一(1997)フン虫地理学1.奈良県のフン虫 ねじればね(75):1-3.
塚本圭一(1999)国産甲虫辞典シリーズ【糞虫】ネグロマグソコガネ LUKANUS WORLD(12):6-7.
渡辺弘之(1989)シバとシカと糞虫 日本の生物(26):14-18.

(NAITO TAKAO 寝屋川市池田3-4-13)